

船舶インシデント調査報告書

令和6年6月26日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

インシデント種類	運航不能（機関故障）
発生日時	令和5年2月5日 10時10分ごろ
発生場所	福岡県宗像市沖ノ島南東方沖 沖ノ島灯台から真方位123° 1,340m付近 （概位 北緯34° 14.3′ 東経130° 07.0′）
インシデントの概要	プレジャーボート ^{なぎさ} 凧沙丸は、漂流中、主機のクラッチが作動しなくなり、運航不能となった。
インシデント調査の経過	令和5年2月13日、主管調査官（門司事務所）を指名 原因関係者から意見聴取手続実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	プレジャーボート凧沙丸、5トン未満（長さ9.71m） 291-35985福岡、個人所有 ディーゼル機関、船内外機、4サイクル、出力169.2kW、6気筒、回転数毎分3,600、ボア94mm、使用燃料軽油、機関製造年不詳、平成8年3月進水
乗組員等に関する情報	船長、一級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	なし
気象・海象	気象：天気 晴れ、風 ほとんどなし、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 ほぼ高潮時
インシデントの経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、主機の操縦レバーを中立としてアイドルリング運転状態で漂流中、釣り場を移動しようとして主機の操縦レバーを前進側に操作したものの、クラッチが作動せず運航不能となった。</p> <p>船長は、海上保安庁に救助要請を行い、本船は、来援した巡視艇にえい航されて宗像市^{こうのみなと}神湊漁港に入港した。</p> <p>本船は、本インシデント後、機関修理業者によって点検されたところ、主機のアウトドライブのプロペラシャフトのオイルシールが破損し、海水が同ドライブ内の潤滑油に混入してギアが焼き付き、クラッチが作動しなくなったことが判明した。</p> <p>船長は、本インシデントの約6～7年前に本船の主機を交換して以降、操縦レバーの操作に異状を認めていなかったため、主機のアウトドライブの整備及び点検を実施していなかった。</p>
分析	本船は、約6～7年間、主機のアウトドライブの整備及び点検が実施されず、また、船長が操縦レバーの操作に異状を認めていない状況下、主機の操縦レバーを中立としてアイドルリング運転状態で漂流中、プロペラシャフトのオイルシールが破損し、海水がアウトドライブ内

	<p>の潤滑油に混入したことから、潤滑不良となって同ドライブ内のギアが焼き付き、クラッチが作動しなくなって運航不能となったものと考えられる。</p>
原因	<p>本インシデントは、本船が、約6～7年間、主機のアウトドライブの整備及び点検が実施されず、また、船長が操縦レバーの操作に異状を認めていない状況下、主機の操縦レバーを中立としてアイドル状態の状態で漂流中、プロペラシャフトのオイルシールが破損し、海水がアウトドライブ内の潤滑油に混入したため、潤滑不良となって同ドライブ内のギアが焼き付き、クラッチが作動しなくなったことにより発生したものと考えられる。</p>
再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 船長は、機関修理業者に依頼するなどして、定期的に出ドライブの開放整備を実施してオイルシールの状況及び潤滑油を点検し、オイルシールの劣化や海水の混入がないことを確認すること。